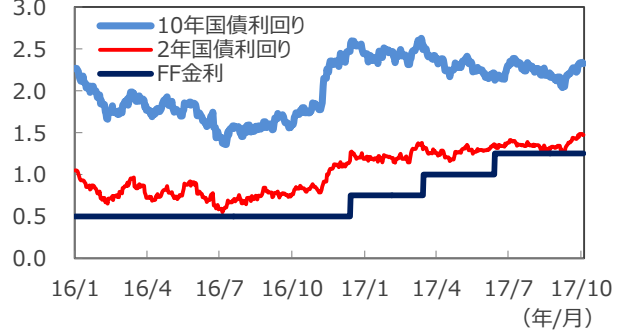


今日のトピック 米国債券市場の動向（2017年9月） 長期金利は緩やかな上昇へ、社債は堅調さが続く

ポイント1 国債利回りは小幅な上昇 利上げ観測の強まり等が影響

- 2017年9月末の米国10年国債利回りは2.33%、前月末比0.22%の上昇となりました。
- 9月は初旬に、北朝鮮による核実験や大型ハリケーンのプロリダ接近を受け、リスク（危険）回避の動きが強まったため、米10年国債利回りは低下しました。しかし、その後は、北朝鮮問題がひとまず後退し、19日～20日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）で年内追加利上げの可能性が改めて示唆されたことなどから、上昇基調を辿りました。

【米国の政策金利と国債利回り】

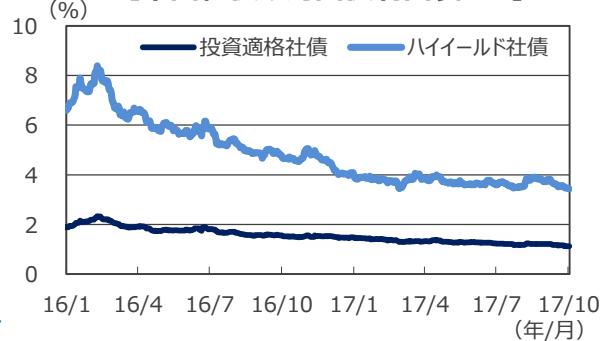


(注1) データは2016年1月1日～2017年10月4日。
(注2) FF金利はフェデラルファンド金利で、FRB誘導目標値のレンジ上限を明示しています。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 社債は堅調に推移 相対的に高い利回りが魅力

- 一方、社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、投資適格債、ハイイールド債ともに縮小しました。北朝鮮問題がひとまず鎮静化したことなどを受けてリスク回避の動きが後退し、社債市場に資金が戻ってきたためです。

【米国社債の対国債利回り格差】



(注1) データは2016年1月1日～2017年10月4日。
(注2) 対国債利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。Bloombergパークレイズ米国社債指数ベース。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 国債利回りは緩やかな上昇へ

- 米国の景気・雇用は堅調に推移しており、米連邦準備制度理事会（FRB）は今後も利上げを継続する見通しです。さらに10月には、FRBはバランスシート（B/S）の縮小に着手します。
- もっとも、物価上昇率が低い水準で推移すると予想されることから、利上げやB/Sの縮小はゆっくりとしたペースで進められると予想されます。従って、長期金利の上昇も緩やかなものにとどまると考えられます。
- 社債については、長期金利が低い水準で推移する限り、相対的に高いクーポン（利息）は引き続き魅力となります。米国内の投資家を中心に利回りと安定性を求めるニーズが強いことを勘案すると、社債への資金流入は今後も継続すると予想されます。

ここもチェック! 2017年9月21日 米国の金融政策（2017年9月）
2017年8月30日 『米長期金利』が上昇しないワケ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。